

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
274	B-02013961	女性	35歳	75mg	塩酸ベタキソロール オキサトミド エバステチン ビタミンB1・B6・B12配合剤 リンゴ酸カルシウム マレイン酸フルボキサミン アトルバスタチンカルシウム フマル酸第一鉄 セフジニル ドンペリドン 総合感冒薬 テブレノン 塩酸チラアミド	大発作痙攣	回復	慢性腎不全により透析を継続中であった。てんかん、痙攣の既往歴無し。インフルエンザを疑い、リン酸オセルタミビル75mgを服用。服用約1日後、一過性の足のしびれに続き、意識消失あり。約5時間後、てんかん大発作あり。1時間後、回復。服用10日後、脳波施行にてslow wave burst(徐波群発)1回あり。約2週間後にも同様の徐波群発を認める。	異常以外-247	
275	B-04026789	男性	35歳	150mg	アセトアミノフェン	意識消失	不明	インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを服用。投与終了後2日目、意識消失が発現。現在転帰不明。	異常以外-248	
276	B-01003997	男性	36歳	150mg	レボフロキサシン ピロミド酸 ヒベンズ酸チベピジン フロモキシセフナトリウム セラペプターゼ アズレンスルホン酸ナトリウム	感覚鈍麻	軽快	39.4℃発熱あり、インフルエンザと最近の混合感染疑いリン酸オセルタミビル投与開始(確定診断は行っていない)。投与2日目に両手のしびれ、全身に発赤、かゆみが発現。本剤及び併用薬の投与中止。抗ヒスタミン剤投与開始。手足のしびれ等発症3日後両手のしびれ軽快し手根管症候群と確定診断。発疹も消失。	異常以外-249	
277	B-05018239	女性	36歳	150mg	インドメタシン アザチオプリン プレドニゾン シクロスポリン ポピドンヨード ベンズプロマロン ファモチジン ラクティン タンニン酸アルブミン メクロプラミド イソプロピルウノプロストン リスベリドン メコバラミン メフェナム酸	精神症状(精神神経症状(不穏、眼右のちらつき、手足のしびれ)) 急性腎不全(急性腎不全) 下痢(下痢) 脱水(脱水)	軽快	腎不全の既往あり。発熱、寒気有りインフルエンザと診断され、治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤服用翌日に水様性下痢が発現。本剤服用2日後、急性腎不全、下痢、脱水、軽度の不安感が発現。本剤服用5日後、つじつまの合わないことを話しパニック障害様症状あり、本剤服用7日後、不安感消失。約4ヶ月後、急性腎不全、下痢、脱水、精神症状回復。さらに4ヶ月後、自覚的にほぼ完全に回復。	異常以外-250	
278	B-06026181	女性	36歳	不明	アセトアミノフェン	異常行動 幻覚 幻聴	軽快 軽快 軽快	インフルエンザB型のため、リン酸オセルタミビル150mg/日投与開始。39℃台発熱時、本剤内服後、幻覚、幻聴、異常行動発現。翌日、本剤中止、入院。	異常以外-251	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表No	備考
279	B-04008325	女性	37歳	150mg	セフトレニボキシル セファゾリンナトリウム ロキソプロフェンナトリウム サリチル酸ナトリウム・カフェイン配合剤 リン酸クリンダマイシン アジスロマイシン水和物	精神障害 悪寒 悪寒 血中クレアチン ホスホキナーゼ増加	回復	リン酸オセルタミビル150mg/日及びセフトレニボキシル他を処方。4日目、39℃に熱が上がり、肺炎出現のため、セフトレニボキシルをアジスロマイシン水和物に変更受診。帰宅後アジスロマイシン水和物を内服後、40℃の高熱とパニックが出現。病院でも奇声を発したうち回っているため入院。翌日パニックはおさまったが、炎症、肝障害が認められたが、本人の希望で退院。	異常以外-252	
280	B-05007134	女性	37歳	150mg	アセトアミノフェン レバミピド ジプロフィリン・ジヒドロコデイン配合剤 塩化リゾチーム	頭痛(頭痛) 嘔吐(嘔吐) 悪心(嘔気)	回復	発熱より受診し、インフルエンザと診断される。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。翌日は通常通り服用。その翌日、朝本剤投与した後、解熱するも、頭痛、嘔気、嘔吐認め入院となり、点滴施行。5日後、症状軽快。	異常以外-253	
281	B-06000102	女性	37歳	75mg	トラネキサム酸 カルボシステイン	痙攣 意識変容状態	軽快 軽快	A型インフルエンザで発熱(38.9℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。投与開始日の夜に全身痙攣及び意識障害が見られ、十数分で回復した。熱性痙攣、てんかん等の既往歴はない。	異常以外-254	
282	B-07024019	女性	37歳	150 mg	アセトアミノフェン	幻聴 幻覚	回復 回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、ヒーターのモーター音が人の歌声の様に聞こえる。幻聴発現。服用3日目、午後、寝ている時、誰かが部屋に入ってきている気配がして、一回開眼して周囲を見ると特に人影はなかった。眼を閉じているとベッド周囲に気配を感じ、左横に来て布団と敷布の間に手の様なものが侵入してきた。首付近に手が来て片手で首を絞める様に感じた。しばらく息を止めていたが、息が簡単にできたので目を開けてみると何もなかった。幻覚発現。		2007/10/1以降 新規報告
283	B-02011509	女性	38歳	75mg		痙攣	不明	インフルエンザ感染症を疑い、リン酸オセルタミビル75mg/日を処方。帰宅後、本剤75mgを服用したところ、痙攣が発現し、病院に搬送されたがその後の詳細不明。	異常以外-255	
284	B-04026632	女性	38歳	150mg	クラリスロマイシン 非ピリン系感冒剤(4) メフェナム酸 トラネキサム酸 カルボシステイン ヒベンズ酸チペピジン アセトアミノフェン	味覚異常	回復	発熱のため、リン酸オセルタミビル150mg/日、メフェナム酸及び非ピリン系感冒剤(4)を投与。投与開始後3日目、キットにてB型インフルエンザと確定診断、クラリスロマイシン他を追加処方(リン酸オセルタミビルは継続投与)。4日目、味覚障害(重篤でないが軽微でもない)が発現。5日目、頭痛、めまい及び発熱がみられたため、本剤投与中止。10日目にベタヒステンメシル酸塩等による処置を行った結果、11日目に回復。	異常以外-256	
285	B-04026778	男性	38歳	150mg	塩酸エブラジノン	頭痛	回復	B型インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを投与。投与開始後3日目、頭痛がひどくなるとの訴えから本剤投与中止。痛みが強いため、入院。その後、回復。	異常以外-257	
286	B-07000204	女性	38歳	150 mg	非ピリン系感冒剤(4) トリアゾラム	自傷念慮	回復	本剤服用後、胸を切りたくなるといった自傷願望発現。その後回復。	異常以外-258	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
287	B-07003014	女性	38歳	150 mg	コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム プロポフォール パニペナム・ベタミロン 乾燥スルホ化人免疫グロブリン 塩酸ドパミン フェニトインナトリウム 濃グリセリン・果糖 塩酸ラニテジン ヘパリンナトリウム オメプラゾール	異常行動 意識変容状態	回復 回復	40℃の発熱で受診し、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。 投与開始2日目、夜、熱は下がってきたものの、意味不明な発言、奇声を上げる。すぐ受診するが、尿失禁などあり。1時間後、精査困難のため、救命救急に搬送。この時、MRIによる異常所見はなし。インフルエンザ脳症を疑い、入院し、ステロイドパルス療法施行。 投与開始3日目、異常行動、意識障害は回復傾向あり。 投与開始4日目、異常行動、意識障害回復。 投与開始5日目、本剤投与終了。	異常以外- 259	
288	B-07001284	男性	39歳	150mg		意識変容状態 てんかん重積状態	死亡 死亡	インフルエンザ陰性であったが、リン酸オセルタミビル服用開始。服用4日目、具合が悪く、病院へかかろうとして車を運転し、その途中で交通事故となる。救急車が到着した時にけいれんを認めた。搬送時もインフルエンザ陰性であった。	死亡-32	2007/10/1以降 追加報告等
289	B-07001357	女性	39歳	150 mg	トラネキサム酸 カルボシステイン 麻黄湯	幻聴	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。同日夜、首のかゆみ、幻聴(話し声、戸の開く音、スリッパの音)、殺されるようなこわい夢をずっとみていた。エチゾラム投与により回復。	異常以外- 260	
290	B-06001134	男性	40歳代	不明		失神	不明	詳細不明(担当医の協力が得られなかった。)	異常以外- 53	
291	B-04025544	女性	40歳	150mg	アセトアミノフェン テプレノン	眼振	未回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。投与2回目の翌日に眼振発現、良性発作性頭位眩暈症と診断。その後継続加療中。	異常以外- 261	
292	B-05021110	女性	40歳	150mg	ゾニサミド カルバマゼピン フェニトイン アセトアミノフェン	自殺念慮(精神症状(幻覚、希死念慮)) 幻覚(精神症状(幻覚、希死念慮))	軽快	てんかんの既往ありのためゾニサミドを継続投与。今回発熱、てんかん発作で入院し、翌日インフルエンザA診断確定、リン酸オセルタミビル投与開始。その2日後、精神症状(幻覚、希死念慮)発現。症状最終発現日は不明だが、発現2日後には希死念慮の訴えは消失していたと考えている。その後2ヶ月間精神症状の再燃はない。	異常以外- 262	
293	B-07000092	男性	40歳	75 mg	ベラプロストナトリウム 塩酸セベラマー メテルドパ ベシル酸アモロジピン バルサルタン アルファカルシドール ポリステレンスルホン酸カルシウム 沈降炭酸カルシウム クロナゼパム メコバラミン センノシド	異常行動	軽快	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。 透析患者のため、本剤75mgを1回のみ投与する予定が、誤って1日1回を5日間投与してしまった。5日間服用後、夜間透析を受けており、睡眠中だったが、急に起きて透析の針を自分で抜いてまた刺したという異常行動(自己抜刺)をおこした。同日症状回復。	異常以外- 263	
294	B-07000136	女性	40歳	75 mg	アセトアミノフェン	意識変容状態	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。意識障害(記憶)発現。	異常以外- 264	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
295	B-07008772	女性	40歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム	痙攣	死亡	風邪気味にて受診。インフルエンザと言われ、リン酸オセルタミビル処方。2日間服用。 服用3日目、朝、急に激しい頭痛あり。その後、就寝したが、その後本人は立って、全身の筋肉痛を訴えた。頭痛、体熱感あり、歩行困難。痛み強く、疎通性も悪いため救急要請。来院時、体温は37°C(昨夜38°C)、頭痛(4~5日前から)、爪の付け根あたりにぶつけたような痛みあり。レベル低下あり。次第に意識障害がはつきりしてきて、完全に疎通性がなくなる。昼、薬物中毒による脳障害の疑いにて、入院。閉眼するも、すぐ閉眼。顔色不良。体動、拒否反応強い。夕方、いびき様呼吸あり。夜、濃グリセリン投与。いびき様の呼吸あり。体交する下肢の硬直あり。口唇色不良あり。 翌朝、早朝から激しいてんかん様けいれん。日中、30数回のけいれん発作あり。夜に入っても発作続くが、次第に15分後とにあった発作なくなる。瞳孔散大、呼吸停止あり、その後、心停止。死亡確認。	異常以外-265 死亡-34	
296	B-07024910	女性	40歳	75 mg	非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム	意識消失	回復	インフルエンザAと診断し、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン等を処方。服用5時間後、眼がさめて、トイレに行こうとしたが、気分不良著しく、階段途中にて、動くこともできない状態となり、意識消失し気がついたら、階段の下に転落していた。救急車にて、夜間病院受診。意識消失10分後には回復していた。		2007/10/1以降 新規報告
297	B-02004174	男性	41歳	150mg	塩酸ツブテロール カルボシステイン トラネキサム酸 ヒベンズ酸チペピジン 塩酸アンブロキシール	視野欠損	未回復	インフルエンザの疑いにてリン酸オセルタミビルを投与(投与日数不明)。投与開始10日後、視野狭窄発現。発現後、1ヶ月以上経過後も未回復。	異常以外-266	
298	B-07004185	男性	41歳	150 mg	アセトアミノフェン リン酸コデイン(1%以下)	意識消失	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェンを服用。夕方、電車の中にて意識消失発現。目撃者の話「白眼をむいて意識なし。数分で完全回復」。救急車にて搬送。到着時回復。CT正常化。 翌日、意識消失回復。	異常以外-267	
299	B-04024731	男性	42歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) セフジニル 塩酸ブロムヘキシン 塩化デカリニウム 葛根湯	痙攣 意識消失	回復	B型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。てんかん発作の既往あり。また、インフルエンザ罹患なしの状態、原因不明の意識消失の経験あり。最終投与(4日目)の翌日にけいれん発作及び意識消失の発現。搬送先での診断は、(側頭葉)てんかん疑い。バルプロ酸ナトリウム投与等の処置により、有害事象発現4日後回復。	異常以外-268	
300	B-05023594	男性	42歳	150mg	塩酸パロキセチン水和物	感覚鈍麻 振戦	軽快	インフルエンザため、本剤投与開始。5日後、腕のしびれ感、ふるえ発現。脳梗塞の疑いから検査を行うが所見なし。投与中止。 3日後、軽快	異常以外-269	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
301	B-05023888	男性	42歳	75mg	維持液(ブドウ糖加)(2) 生理食塩水 開始液(1) 塩化ナトリウム 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン 濃グリセリン・果糖	落ち着きのなさ	回復	不眠、嘔吐、こむらがえり、全身倦怠感で入院。 著しい低Na血症(110mEq/l)で点滴にて補正試みる。 約1ヶ月後、発熱(39℃)、全身倦怠感でインフルエンザA型確定診断後、本剤投与開始。当日は著変なし。 翌日、心電図モニターを自己ですす、採血をさせないといった行動あり。 その1時間後から不穏発現。(無表情、発話なし、食事を食べない) その翌日、不穏回復(発話等に問題ない状態となる) 入院から約3週間後、退院	異常以外- 270	
302	B-05024836	女性	42歳	75mg	維持液(5) チアミンジスルフィド・B6・B12配合 剤 ソビクロン エチゾラム	易興奮性	回復	A型インフルエンザで発熱(38℃)が見られ、リン酸オセルタミビルを服用した。服用開始から約30分後に興奮状態になる。その後、興奮状態が軽快した。	異常以外- 271	
303	B-05025592	女性	42歳	150mg		うつ病	回復	流感としてリン酸オセルタミビル処方(確定診断は行っていない)。前日の10時38.1℃。服用開始2日後に解熱。3日目より抑うつ状態発現。投与開始後6日目に本剤投与中止。投与中止1日後インフルエンザ軽快、うつ状態持続。中止4日後うつ状態消失。	異常以外- 272	
304	B-07001892	女性	42歳	150mg	アセトアミノフェン	味覚異常	不明	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用開始3日目、夕方、味覚障害発現。服用開始4日目、嗅覚障害発現。水様下痢もあり。	異常以外- 273	
305	B-04027500	女性	44歳	75mg	なし	意識消失	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル150mg/日を投与開始。1回目の服用30分後、意識消失発現、転倒し、前頭部を床にぶつける。5分後、意識回復。本剤服用中止。その後は有害事象発現せず。	異常以外- 274	
306	B-05022245	男性	44歳	150mg	非ピリン系感冒剤 イブプロフェン	うつ病	回復	咳、発熱のため受診し、PL顆粒投与。確定診断後、本剤投与開始。服用終了1日後、自信のない感じ、不安感、不眠などのうつ状態発現。仕事内容、信号等が理解できなくなる。意欲減退。他院受診、入院となり抗うつ剤、睡眠導入剤を処方。2日間、うつ病よりも意識レベル低下か幻覚の状況であり、診断途中、異常な発言あり。その後うつ状態は回復し、退院となる。	異常以外- 275	
307	B-05002258	男性	45歳	150mg		意識消失(意識消失)	回復	インフルエンザ治療目的にリン酸オセルタミビル投与。投与開始日、意識消失発現(30秒程度)。同日回復。4日後、本剤投与終了。	異常以外- 276	
308	B-05024830	女性	45歳	150mg	塩酸アンプロキシロール 臭化水素酸デキストロメトラン 塩酸エピナスチン	意識消失	回復	A型インフルエンザで発熱(37.9℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始。投与開始初日の夜に一過性の意識消失が見られた。意識消失は当日中に回復し、その後もリン酸オセルタミビルの服用を継続し、投与開始から4日目にリン酸オセルタミビルの服用を中止した。その後も特記すべき所見は認められなかった。	異常以外- 277	
309	B-07000245	男性	45歳	150mg		自殺既遂	死亡	一年以上前、インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用。次の日、自殺。	異常以外- 278 死亡-35	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
310	B-06026807	女性	47歳	75 mg	クラリスロマイシン d-マレイン酸クロルフェニラミン 鎮咳配合剤(1) カルボシステイン アセトアミノフェン	痙攣	回復	38.7℃の発熱あり。インフルエンザ陰性であったが、症状よりインフルエンザと診断。リン酸オセルタミビル処方。直ちに服用し、帰宅。夕方、洗濯物を取り込んでいた時に、意識消失して庭で倒れた。顔面に数ヶ所、擦過傷を自傷し、鼻出血も認められた。家人が発見したとき、意識消失に加えて、軽度のけいれんを顔面から両手指に認めた。その後、約5分間くらい安静にしたところ、覚醒した。意識消失、けいれん回復。本剤服用中止。	異常以外-279	
311	B-07004341	女性	47歳	75 mg	クエン酸フェンタニル 塩酸ロピバカイン水和物 ベンタゾシン 塩酸ヒドロキシジン スルバクタムナトリウム・セフォペラ ゾンナトリウム	異常行動 てんかん	回復 回復	手術を予定していたが、同居の子供がインフルエンザに感染。手術日を延期できなかったため、リン酸オセルタミビルを予防的に服用。服用2日目、全身麻酔と硬膜外麻酔を行い、術後、覚醒ののち病室にて「てんかん様不随意運動(胸を掻き繕る)」、「意識は呼びかけに応じて目が開けない」等の症状が発現。服用3日目、回復。	異常以外-280	
312	B-05024259	男性	48歳	75mg	塩酸セフカベンピボキシル 維持液(3) アセトアミノフェン レバミピド	異常行動 痙攣 失神	回復 回復 回復	A型インフルエンザで発熱(39.3℃)が見られ、リン酸オセルタミビル75mgを夕方に服用。当日の午後7時頃、失神を起こし、検査にて重度の不整脈が確認された。その後、症状は回復している。	異常以外-281	
313	B-07003778	女性	48歳	75 mg		異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。投与開始2日目、朝、自宅トイレにすわりこみ、床に頭を何度打ちつけているが、自分で止めることが出来ない。それが2回続いた。その後、意識(記憶)なし。家族の呼びかけで意識を取り戻す。	異常以外-282	
314	B-07023856	男性	48歳	75 mg	アセトアミノフェン	譫妄	回復	夕方、インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用1時間後、せん妄状態となり、大人二人がかりでやっと押さえつけるほど暴れたため、救急外来受診。受診時は症状なし。本剤中止。服用中止13日後、せん妄回復。		2007/10/1以降 新規報告
315	B-05000394	女性	49歳	150mg		意識変容状態 落ち着きのなさ	回復	39℃の発熱があり受診、インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビルを投与。4日間自宅で療養。4日目の夜、意識障害、不穏状態発現。投与を中止し翌日インフルエンザ確定診断実施するがウイルス検出されず。意識レベルが低かったため入院、ステロイドパルス療法により症状軽快、症状発現3日後にほぼもとの状態に回復し、7日後に回復退院。	異常以外-283	
316	B-07000129	女性	49歳	75 mg	酒石酸ゾルピデム ロキソプロフェンナトリウム 非ピリン系感冒剤(4) フルバスタチンナトリウム ピコスルファートナトリウム テブレノン	異常行動 異常行動	不明 不明	患者がインフルエンザの検査を拒否したが、リン酸オセルタミビル処方。翌日、運動する際、車で自損事故を3回繰り返した。来院し、インフルエンザの検査を実施したところ陰性。	異常以外-284	
317	B-05025356	女性	50歳代	不明		痙攣	未回復	リン酸オセルタミビル5日間処方され服用開始。眼の周りが痛い、痙攣発現。本剤2日分服用にて中止。痛みが出てから1週間以上経過するも改善せず。副作用の発現時期等詳細不明。	異常以外-285	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
318	B-07001423	女性	50歳	150 mg		頭痛	回復	インフルエンザAと診断され、リン酸オセルタミビル処方。体温:38.5℃。本剤4日間服用し、解熱し体調良好となる。 インフルエンザの転帰:軽快・回復。 本剤服用終了5日後、突然に左側頭部～左後頭部にシビれる様な頭痛発現。以前にあった片頭痛とは異なる頭痛であった。鎮痛剤服用するも頭痛強く、入院。頭部CT所見なし。その後、処置にて軽快。	異常以外-286	
319	B-05005032	女性	51歳	不明		精神症状(精神症状)	回復	頭痛・発熱有り受診。インフルエンザと判断され、治療目的にリン酸オセルタミビル投与。5時間後、突然興奮、過換気状態となり救急搬送される。翌日、不穏状態改善。10日後、全身状態良好となり退院。	異常以外-287	
320	B-07000160	女性	51歳	150mg	臭化水素酸デキストロメトルファン 塩酸プロカテロール ラミブジン シクロスポリン	意識消失	軽快	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを投与開始(5日間)。意識消失発作が発現。投与終了後、3日目、意識消失発作にて自宅で倒れているところを家族が発見した。その後、意識はすぐに回復した(生体肝移植後で病院に通院中であり、同病院の医師に相談し、本剤はそのまま内服を続行したが、その後、意識障害はなかった)。	異常以外-288	
321	B-07000229	女性	51歳	150 mg	クラリスロマイシン リン酸ジメモルファン セラペプターゼ	幻覚 幻視	軽快 軽快	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用2時間後、気分不良、嘔気が発現。ふらつきがあり、足が倍程に太くなる等の幻覚が発現。翌々日の朝、MRI施行するも異常なし。幻覚、幻視は軽快。	異常以外-289	
322	B-01002845	男性	52歳	150mg	ジクロフェナクナトリウム 塩酸ホミノベン	糖尿病性昏睡 高浸透性昏睡	回復	交通事故によるL1、2脊髄損傷(下肢不全麻痺)、肥満。 発熱(37.1℃)、悪感、咽頭痛で、急性喉咽頭炎の診断でファロム投与開始。 翌日、口渇、多尿あり。 2日後、発熱(39℃)、全身・怠感出現、インフルエンザ疑いにてリン酸オセルタミビル投与開始。 その4日後、本剤投与中止。 投与中止1日後、多飲、多尿、全身・怠感持続。午後より悪心、嘔吐発現。 投与中止2日後、異常高血糖(高浸透性非ケトン性昏睡)、急性腎不全発現(呼吸困難、意識昏迷状態、コーヒー残渣物嘔吐など)。同日、意識状態悪化、呼吸状態悪化、心電図異常(急性腎不全による)発現。 その2日後、心電図正常化。 その4日後、異常高血糖(高浸透性非ケトン性昏睡)、急性腎不全回復。 DMコントロール、下肢不全麻痺のリハビリの為、転院	異常以外-290	
323	B-04027266	男性	52歳	150mg	ファロペネムナトリウム ロキソプロフェンナトリウム 非ピリン系感冒剤(4) アズレンスルホン酸ナトリウム・レ グルタミン	浮動性めまい 冷汗 嘔吐 下痢 血圧上昇 心電図QRS群 延長	回復	B型インフルエンザ治療のため、150mg/日のリン酸オセルタミビルを投与。 投与開始3日目夜間より、冷汗、眩暈、悪心発現。3日目、完全右脚ブロック(QRSの延長)を確認。冷感、体動時眩暈、嘔気、嘔吐あり、入院。4日目、眩暈あるも嘔気、下痢回復。5日目眩暈続くも退院、以後転帰不明。	異常以外-291	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)  
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
324	B-05000322	男性	52歳	75mg	フルオキシメステロン プレドニゾン テブレノン ニコチン酸トコフェロール 塩化カリウム ジピリダモール 塩酸アンプロキソール 臭化水素酸デキストロメトルファン 塩酸セファペンピボキシル 非ピリジン系感冒剤(4) レノグラステム(遺伝子組換え) ロキソプロフェンナトリウム	痙攣(全身性 痙攣)	軽快	発作性夜間血色素尿症、再生不良性貧血、慢性腎不全の既往あり。38℃を超える発熱出現感冒薬等投与するが、2日後になっても発熱、倦怠感持続のため受診。迅速検査でインフルエンザBと診断、リン酸オセルタミビルを投与。2回投与後全身性の硬直性痙攣が出現し、数分間持続。その後通常状態に戻るも、痙攣の前半部の記憶は定かでない。腎機能増悪のため治療。	異常以外- 292	
325	B-07000155	女性	53歳	75 mg	アセトアミノフェン	意識変容状態	回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを処方される。服用後、就寝。翌朝、服用後、腹痛のためトイレに入る。冷汗が出て気付いたら意識喪失で倒れているところを夫が発見。歯3本折る、顔の外傷、頭部血腫。自律神経系異常、意識消失発現。他院でCTをとったが異常なく、現在治療中。発見時、大きないびきをかいていた。	異常以外- 293	
326	B-07000231	女性	53歳	150 mg		意識変容状態	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。2回目服用4時間後、トイレで倒れ意識消失1分位あり。救急車で来院。応答できるがぼんやりした感じ。上肢の脱力と嘔気がある。翌朝、症状改善し、退院。倒れたときの記憶はなく、意識消失は確かにあったものと考えられる。	異常以外- 294	
327	B-07004232	女性	54歳	75 mg	塩酸フェキシフェナジン 臭化水素酸デキストロメトルファン テブレノン	血圧低下 意識変容状態	回復 回復	インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。夕、本剤服用後、咳がひどく痛くなった。体温は39℃台から36℃台に速やかに低下。夜、突然意識を失って転倒。家族が呼んでも反応なし。救急隊到着時、血圧低下、意識障害あり。外来到着時、血圧が低下していたが、徐々に上昇。まもなく覚醒したが、見当識障害が強くベッドからこぼれ落ちそうになるほど。明らかに異常行動の危険があると判断されたため、入院・経過観察とした。その後、3~4時間で全く普段通りに戻った。 服用から2日目、血圧低下、意識障害回復。インフルエンザ軽快。	異常以外- 295	
328	B-07026000	男性	54歳	不明		痙攣	不明	夕方、インフルエンザA型の診断で、リン酸オセルタミビルおよび総合感冒薬処方。服用6時間後(深夜)、40.5℃、蕁麻疹と掻痒感あり。服用2日目、朝、体温37.6℃。おにぎりなどを食べた後、意識消失発作(家族は痙攣を伴ったというが、硬直などではないかと思う)。嘔吐があったため、詰まるといけないので家族が背中を叩いたところ意識が戻った。		2007/10/1以降 新規報告
329	B-02012658	女性	55歳	150mg	五虎湯 血圧降下剤	意識レベルの 低下	回復	近医にて耐糖能異常と診断されたが投薬なし。低血糖発作既往、TIAの既往なし。インフルエンザ治療のため午前中より、リン酸オセルタミビル服用開始。服用開始2日目に食事の後本剤服用10分後に気分不良、冷汗、意識もうろう、全身発汗発現、トイレにて倒れる。動悸著明。約1時間半後、処置せず症状回復。	異常以外- 296	
330	B-03012141	女性	55歳	150mg		痙攣	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方。夕方75mgを服用。3時間後に上肢が痙攣したが、1時間ほどで改善。	異常以外- 297	